

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 3 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

3 月	1 日	～	780 円/Kg
3 月	9 日	～	760 円/Kg
3 月	14 日	～	780 円/Kg
3 月	19 日	～	770 円/kg
3 月	23 日	～	750 円/kg
3 月	29 日	～	740 円/kg

平成 30 年 3 月度は平均で 765.70 円/kg となり、前月比 35.80 円/kg の値下りとなりました。

海外銅価の動き

- ① 3 月の LME 銅相場 3/1 ～ 3/29 (安値ドル 6,500.00～7,015.00 高値ドル)
3 月の NYC 銅相場 3/1 ～ 3/29 (安値セント 296.05～314.00 高値セント)

2018 年 3 月度の LME 現物は、3/1 \$6,852.00 でのスタート。年初より \$7,000 台でのスタートを切り数日 \$6,000 台へ下がることもあったが、基本 2 月末までは \$7,000 台を保持する形で推移して来た銅相場も 3 月に入り \$7,000 を越えたのは 1 日 (3/14) のみの動きとなった。トランプ米大統領が鉄鋼やアルミに輸入制限課す方針を表明したことから、貿易摩擦への懸念が強まったことが大きな要因と考えられる。欧州・中国も対抗措置を検討、表明する動きが加速する状況となった。政治向きについても、ロシア元スパイの暗殺未遂事件や米朝関連事項など外交関連での動きも相場には大きく影響していると思われる。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 2 月 資料より (単位/千トン)

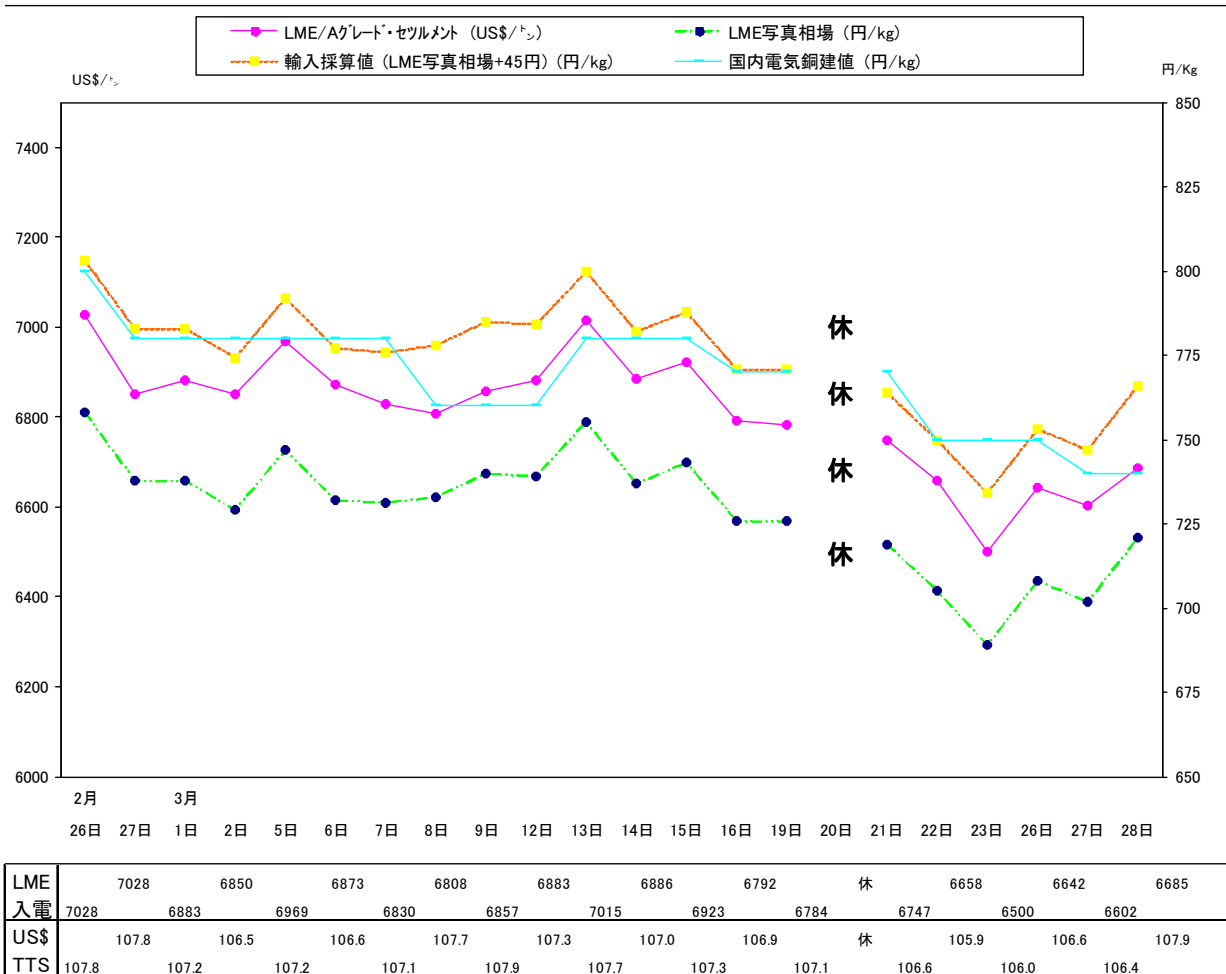
	2015年 実績	2016年 実績	前年比	2017年 予想	前年比	2018年 予想	前年比
全世界地金生産	21,954	22,785	+3.8%	23,008	+1.0%	23,306	+1.3%
全世界地金消費	21,817	22,584	+3.5%	23,059	+2.1%	23,522	+3%
全世界需給バランス	+137	+201		-51		-216	

先行き短期見通

国内銅価

3 月度の国内建値は 1 日 780 円/kg でスタート。9 日には一旦 760 円に下げるも 14 日すぐに 780 円に戻す動きとなる。そこからは、LME も徐々に下げる動きとなり、また円高も進む中で月末に掛けて 3/19 770 円、3/23 750 円、3/28 740 円と下げ一方の展開となった。月末の在庫は 39 万 t に迫る。3/29 付 LME \$6,685.00、29 日付 為替 (TTS) 1USD=107.90 円で日本円換算計算値 721 円/kg。2018 年 3 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、760 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年3月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 3月 1日 ~ 421 円/kg
- 3月 6日 ~ 397 円/kg
- 3月 9日 ~ 388 円/kg
- 3月 14日 ~ 397 円/kg
- 3月 19日 ~ 391 円/kg
- 3月 26日 ~ 382 円/kg

平均394.40円/kg

平成30年3月は上記の通りで前月比 37.20円/kgの 値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	3月	316.00	円/kg	(前月比-	24.50	円/kg)
電気錫(相対)	3月	3,700.00	円/kg	(前月比-	100.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	3月市中価格	1,500.00	円/kg	~ 1,550.00	円/kg	
銀	2月平均	59,280.00	円/kg	(前月比-	3,230.00	円/kg)
	3月29日	57,420.00	円/kg			
金	2月平均	4,653.42	円/g	(前月比-	119.32	円/g)
	3月29日	4,581.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成30年2月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		1月度実績	2月度速報	前月比	前年2月度実績	前年同月比
銅	板	1,117	1,349	20.8%	1,353	-0.3%
	条	20,800	22,219	6.8%	21,963	1.2%
	管	9,018	9,177	1.8%	9,612	-4.5%
	棒	2,155	2,391	11.0%	2,200	8.7%
	線	270	286	5.9%	248	15.3%
黄銅	板	503	540	7.4%	525	2.9%
	条	8,124	9,110	12.1%	8,449	7.8%
	管	598	655	9.5%	604	8.4%
	棒	15,106	15,736	4.2%	16,278	-3.3%
	線	2,168	2,438	12.5%	2,323	5.0%
青銅	板	2,675	2,733	2.2%	2,888	-5.4%
	条					
	棒	204	233	14.2%	253	-7.9%
	線	81	79	-2.5%	69	14.5%
洋白・その他	板	555	491	-11.5%	446	10.1%
	条					
	棒	41	47	14.6%	38	23.7%
	線	379	431	13.7%	442	-2.5%
合計		63,794	67,915	6.5%	67,691	0.3%

2月の伸銅品生産速報は、67,915トンで前月比プラス4,121トン、前年同月比プラス0.3%となり、前年同月比が6ヶ月連続でプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の17年12月分実績及び18年1月分推定によれば、12月は通信、電力が大幅に落込み、電気機械も微減で建設電販が前年同月比1.0%減となり4部門が前年同月を下回ったものの、自動車やその他内需など3部門が健闘して増加したため、総計は57,494tで同0.7%増となり、2ヶ月振りに増加に転じた。

この結果17年暦年(1～12月実績)は、建設電販が3年ぶりに増加(0.1%増)に転じ、輸出(同21.3%増)、自動車(同9.1%増)その他内需(同6.5%増)、電気機械(同0.6%増)と通信と電力の2部門を除き6部門が伸長し、総計691,117tで同1.4%増へ。

12月分の銅電線出荷量を部門別にみると、マイナスグループは通信、電力、電気機械、建設電販の4部門になった。通信は光化の影響を受けてPECなどが伸び悩み、同27.6%減少と下落が続いた。電力は保守メンテが多く、張替需要は鈍化し同11.7%減と再び水面下に沈み、電気機械は家電向けなどが鈍化し、同1.2%低下し2ヶ月連続の減。建設電販も1.0%減少し前年割れに。

一方、プラスグループは3部門。自動車は生産台数の増加により20ヶ月連続で前年同月を上回り、同9.2%の増加。その他内需は民間設備投資が比較的底堅く動き、同5.2%増加。輸出は電力ケーブル需要が継続し同68.5%増と5ヶ月で大きく伸びた。

1月の銅電線出荷推定は、増加は自動車、その他内需、輸出の3部門に留まり、総計は53,100tで同1.8%減と減少の見込。

2017年12月分(実績)・2018年1月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	12月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	1月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	12月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	764	▼1.9	▼27.6	800	4.7	▼14.1	1,398	(▼7.4)	14.3
電 力	(1,062)	(▼13.2)	(▼11.4)	(1,300)	(22.4)	(▼5.9)	767	(▼29.4)	(2.1)
	3,111	▼34.9	▼1.7	3,800	22.1	▼17.9	3,506	▼32.8	14.6
電 気 機 械	(412)	(▼8.2)	(0.2)				389	(▼8.7)	(▼0.8)
	12,437	▼6.2	▼1.2	11,400	▼8.3	▼3.4	16,786	▼5.2	6.9
自 動 車	(1)	(1.1)	(▼15.2)				382	(▼1.8)	(22.4)
	7,078	0.1	9.2	6,400	▼9.6	13.3	31,216	▼2.3	8.9
建 設・電 販	(16)	(▼40.7)	(45.5)				1	(▼56.0)	(37.5)
	27,896	▼6.9	▼1.0	24,800	▼11.1	▼2.6	32,962	▼6.3	11.8
そ の 他 内 需	(63)	(▼1.9)	(▼1.6)	(500)	(▼14.1)	(▼8.8)	55	(▼16.7)	(▼6.8)
	4,360	▼4.2	5.2	4,500	3.2	1.5	6,951	▼4.9	27.8
内 需 計	(1,644)	(▼11.8)	(▼6.8)	(1,800)	(9.5)	(▼6.7)	1,604	(▼1.4)	(5.4)
	55,646	▼8.0	▼0.6	51,700	▼7.1	▼2.3	92,819	▼6.1	11.1
輸 出	(5)	(▼98.3)	(▼99.2)	(300)	(5900.0)	(26.6)	15	(▼90.3)	(▼97.6)
	1,848	▼4.0	68.5	1,400	▼24.2	19.9	6,495	16.7	24.7
合 計	(1,649)	(▼23.5)	(▼32.1)	(2,100)	(27.3)	(▼3.0)	1,619	(▼24.6)	(▼24.2)
	57,494	▼7.9	0.7	53,100	7.6	▼1.8	99,314	▼4.9	11.9
心 線 販 売	(1,031)	(▼18.5)	(28.1)	(1,100)	(6.7)	(9.0)	269	(▼17.0)	(47.8)
	28,694	▼11.6	▼1.5	28,800	0.4	7.2	22,341	▼11.0	22.7

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2017年12月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	4,067	▼11.4	▼1.2	3,875	▼5.5	35.5	
巻線	11,473	▼5.2	2.5	11,668	▼3.9	12.6	
機器用電線	3,586	▼5.1	10.7	10,428	▼4.7	16.0	
通信用電線・ケーブル	1,481	*.3	▼16.6	3,319	▼6.4	5.7	
電力用電線・ケーブル	20,084	▼12.0	3.1	21,001	▼10.5	21.5	
被覆線	1,121	▼4.6	▼6.4	15,799	▼4.5	5.2	
輸送用電線	5,602	▼2.7	5.7	33,223	▼1.4	6.7	
銅電線計	57,494	▼7.9	0.7	99,314	▼4.9	119.9	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	69	▼11.5	▼9.2	238	▼11.9	▼17.1
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,889	▼7.8	▼7.6	3,489	▼4.6	4.6
	計	2,963	▼7.9	▼7.7	3,751	▼5.0	3.1
アルミ電線計	1,649	▼2.5	▼32.1	1,619	▼24.6	▼24.2	
光製品	3,639,439	▼19.5	▼1.5	23,623	10.0	▼4.2	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	3,873	▼6.7	▼14.2	

(注)1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注)2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注)3. 光製品の数量はkmc

(注)4. ▼はマイナス

◎ **アルミニウム関係**

○ 国際アルミニウム地金相場の第1・2週は、中国PMIが政府発表とは対照的に財新中国PMIが51.6と好調に推移。上昇材料となる。米トランプ大統領がアルミに10%の追加関税を課す方針を発表。この週、アルミ関税の導入決定→有力議員が反対を表明、まではよかったが、→講義のために辞任という選択により、関税案だけでなくトランプ政権の経済政策に関する不透明感が高まる。各国様子見状態が続く。第3週は、アルミ関税導入、米朝首脳会談、ロシアゲート問題、米国務長官解任と相場はもっぱら政治要因に左右される状況が続く。先行きが不透明すぎて身動きが取れない状態。\$2,090~\$2,100はテクニカル上の節目のライン。米政権の保護主義加速が意識される中で上値が重い状況が続く。第4週、トランプ大統領が中国製品への関税適用を命じる大統領令に署名したことで貿易戦争への懸念が高まり相場を下押し。最終週、LME指定倉庫で、3万トン超のキャンセルワラントが出ており、在庫減少が意識されれば上昇圧力となると見られる。目先\$2,020前後での展開を予想。

○ **対日オファー及び国内価格**

- ・対日オファー（CIF） 2018年3月積 2,194.00~2,205.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年3月積 249.10~250.40 円/kg
- ・NSP 2018年1月 299.7 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年4月~6月 300.00 円/kg

○ **IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）**

	'18年1月	'18年2月	'17年2月
月生産	*2,371.0	2,469.0	2,392.0
平均日産	*76.5	88.2	85.4

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

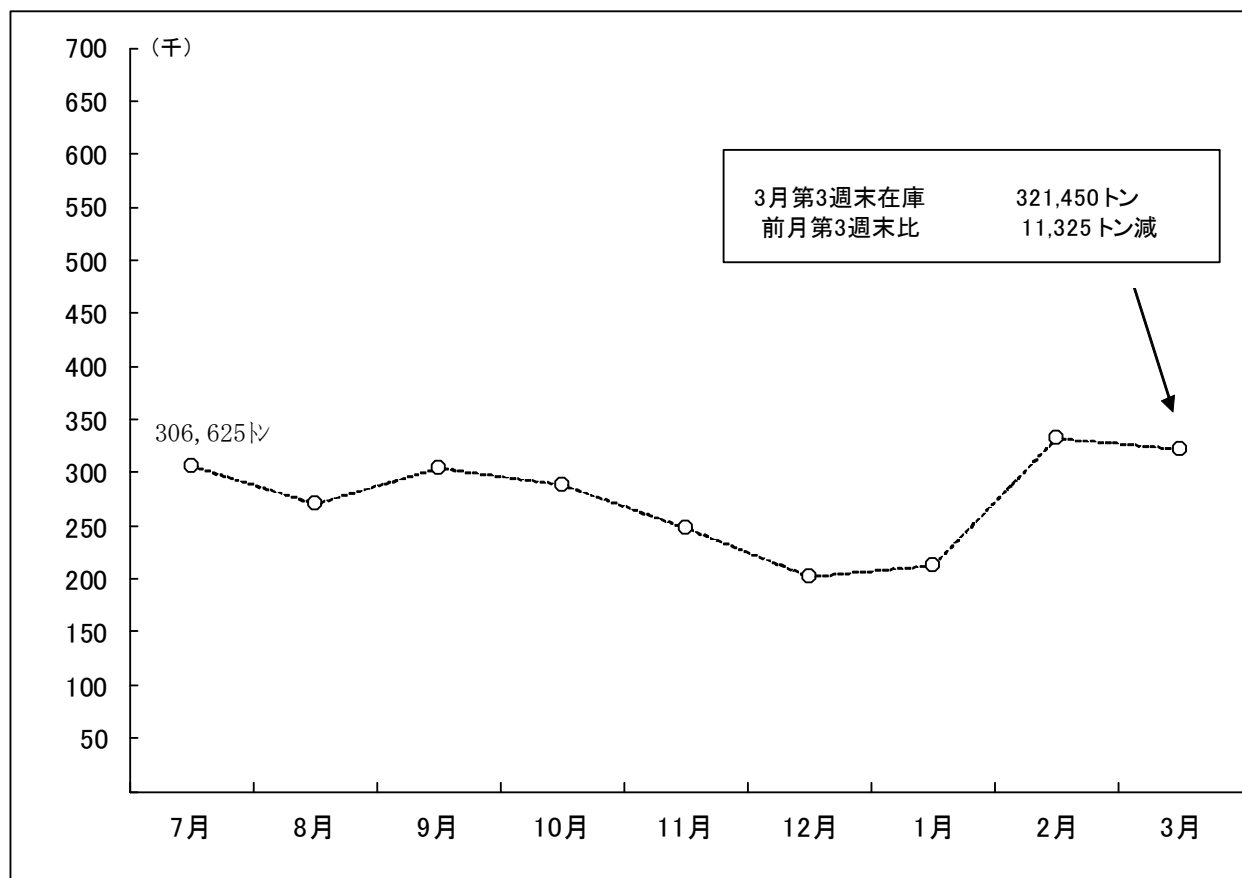
○ **アルミインゴット港湾在庫**

(単位：トン)

	2017年11月	2017年12月	増減	2016年12月	増減
横浜	117,300	115,400	-1,900	128,500	-13,100
名古屋	102,600	111,500	+8,900	132,000	-20,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	234,900	241,900	+7,000	275,500	-33,600

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年3月16日現在 233,675 S T 前月比 7,367 S T 増

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年2月末 98,318 トン 前月比 5,775 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・ 30年1月確報 63,794 トン
 ・ 30年2月速報 67,915 トン 前月比 106.6 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年2月速報 55,800 トン 前月比 105.1 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 30年 1月	板 類	87,410 トン	
	押 出 類	60,869 トン	
		148,279 トン	前月比 86.9 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。